

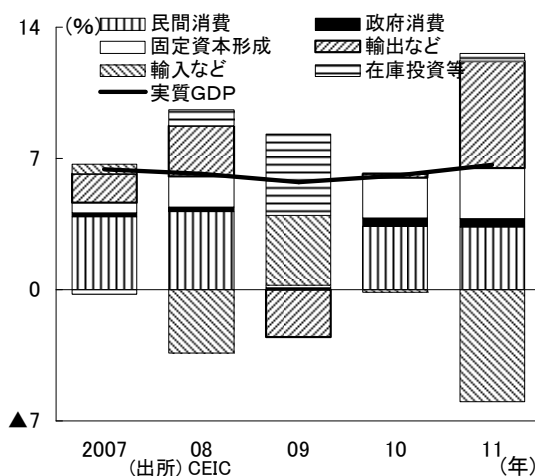


高成長続くバングラデシュ

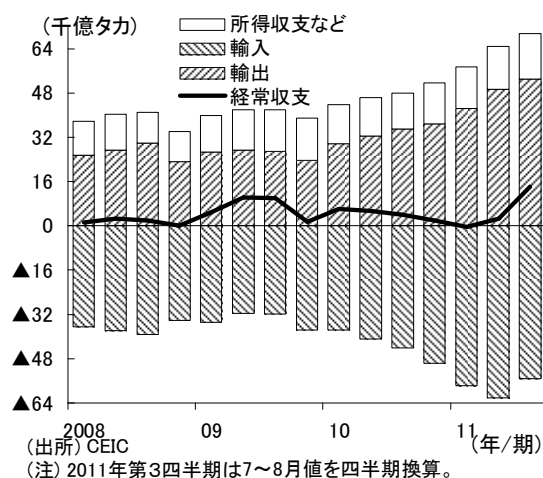
～ 外資流入で投資・輸出主導型成長へ ～

- (1) 2000年代に入り、バングラデシュは実質6%前後の高成長を持続（図表1）。11年も6.7%成長の見込み。需要項目別寄与度をみると、2000年代を通じて民間消費が3～4%、固定資本形成が2～3%。総じて内需主導の経済成長。そうしたなか、本年は輸出が大幅に増加。リーマン・ショックで輸入が落ち込み、結果として純輸出が成長に対してプラスに作用した09年を除くと、国内の生産力が乏しいなか外需が成長制約となってきた状況から様変わり。
- (2) 経常収支の推移をみると、10年初まで輸出入とも一進一退（図表2）。しかし、10年半ば以降、輸出入ともほぼ期を追って増加。従来、主要な輸出品目は農産品と鉱物資源。しかし、このところの増加は衣類など軽工業品をはじめとする工業製品。輸入サイドでは、発電機や工作機械など機械機器が増加。輸出増加を受けて本年入り後、依然、規模は小さいものの、経常収支の黒字幅が期を追って増加。
- (3) 輸出増を映じて国内の鉱工業生産が盛り上がる一方、発電量も増加（図表4）。09年初まで発電量、鉱工業生産ともほぼ横這いで推移。09年半ば以降、緩やかな増勢に転換。さらに10年末以降、増勢加速。
- (4) 国内貯蓄、資本蓄積とも乏しい同国が工業化による成長離陸を実現するには、海外からの資本流入が不可欠。一方、外資サイドでは、ミャンマーと並んで、東南アジア、南アジアで最も賃金コストが低いうえ、文盲が少なく有力な労働市場として近年、注目が高まるなか、直接投資が05年以降、着実に流入。背景には現政権の対外開放・成長指向政策。以上を総じてみると、同国経済は直接投資を起点とする投資輸出主導型成長による高成長持続の公算大。

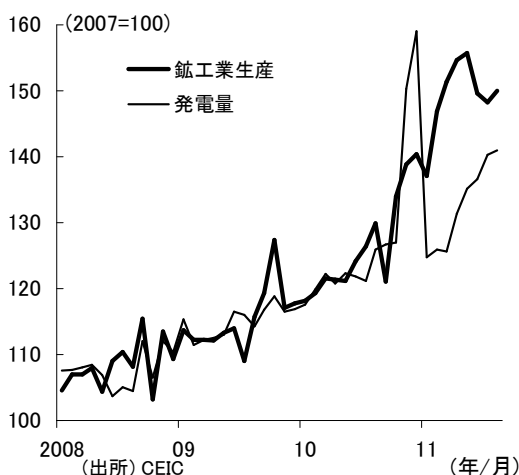
（図表1）バングラデシュの実質経済成長率



（図表2）経常収支の推移



（図表3）鉱工業生産と発電量（季調済）



（図表4）資本収支と直接投資

